

公益財団法人日本中国国際教育交流協会

会報 NO. 25 2016. 10. 30

共生力

HP: <http://ajciee.or.jp/>

Tel : 055-269-6533 Fax: 055-269-6534

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16

甲府丸の内マンション 302

発行人：黒田文男

第1回日中音楽教育 交流会開催

日中70名の教師が実践等の交流



東原実験学校講堂での開会セレモニー

中国宋慶齡基金會と日本中国国際教育交流協会との、新たな教育交流プロジェクトの一つとして「日中音楽教育交流会」が、開催されました。山東省泰安市東平県教育局の全面的な協力の下に、三者の共催という形で、8月22日月曜日に、東平県東原実験学校を会場に行われました。目的は「中国・日本双方の音楽教育（小学校）の実践について交流し、互いの音楽教育の質の向上を図る」とし、東平県内の音楽教師40名と東原実験学校関係者や東平県教育局関係者20名、宋慶齡基金會の関係者3名、そして日本側から静岡県磐田市の音楽教師（校長・主幹教諭）と協会関係者の6名の総員約70名で実施しました。

午前の部は、9:00から開催行事から始まりました。それぞれの組織を代表して、何東平県教育局長、劉中国宋慶齡基金會基金部項目綜合所長、黒田日本中国国際教育交流協会代表理事が、開催に向けてのあいさつを行いました。



神谷校長先生の発表

9:30から発表が始まり、まず日本側から静岡県磐田市富士見小学校神谷校長先生が「音楽教育の小学校教育課程とその実践」の発表を行いました。発表後は、熱心な質疑応答が行われました。

11:15～

12:00の昼食（学校の食堂で、調理師さん達が腕を振るった、大変にボリュームがあり、しかも地方色豊かでおいしい昼食をいただ



李靜先生の発表の様子

きました）後、12:00から午後の部を始めました。

午後の部は、日本側から静岡県磐田市富士見小学校安藤主幹教諭による音楽教育実践発表として「やさしいリズムアンサンブル+自由なリズム」の発表



安藤先生の発表の様子

がありました。参加者全員が、リズムアンサンブルの授業体験をしながら実践について学ぶという形で、とても盛り上がった発表となり、同時に

交流となりました。さらには、発表の途中で中国の歌「茉莉花藻モーリーファ」を取り上げたことで、会場の雰囲気が一気に盛り上がり、参加した日の音楽教師の心が一つになる感じがしました。質疑応答の後、今度は、中国側から東平県第四実験小学校音楽教師の李志偉先生の「教師は授業の



李志偉先生の発表の様子

引率者で、学生は学習の主人」という実践発表がありました。李先生の人間性の豊かさが感じられる実践発表で、最後の「北国の春」の合唱時には、会場が本当に一つになったように感じました。



リズムアンサンブルの授業体験の様子

『第5回教育交流ホームステイ』 忘れられない夏を今回は「千葉」で



千葉県教育会館での記念写真

「中国人留学生の日本語学習の一助として、日本家庭でのホームステイを体験し、ホストとの交流を通して日本語の語学力を磨き、日本人及び日本文化に対する理解を深め、日中両国の友好の礎を担う人材を育成すること」を実施目的として取り組んできた「教育交流ホームステイ」が、第5回となりました。今年度は、千葉県の先生方の協力を得て、8月5日（金）から7日（日）の2泊3日で行いました。千葉県内各地域の7家庭のホストファミリーに、中国からの留学生（日本語研修生）7名が、ホームステイしました。

ホームステイ日程

8月5日（金）

新宿駅9:30集合→千葉へ（中央線・総武線）、千葉県教育会館11:00:ホストファミリーと合流（自己紹介等セレモニーを）→各ホストファミリーごとに活動にうつる

8月6日（土）

ホストファミリーごとの取り組み（各ホストの計画と学生の要望による体験等）

8月7日（日）

午前中はホストファミリーごとの取り組み→千葉県教育会館15:00ホストファミリーとのお別れ会（全体総括会）→千葉駅16:30（総武線快速）

→新宿駅 18:00 解散

全体交流会でのお話や感想、アンケートや感想文からは、7人の留学生・ホストの7家庭とも「忘れない有意義な時間を過ごせた」とのことでした。

「教育交流研究等助成事業」として、田中一郎奨学基金を利用しての取り組みですが、日本語研修・相互理解・人と人



新宿駅での集合の様子

とがつながり合う等の点でも、大きな成果を上げていると感じます。来年度も開催場所等のご協力を得ながら、更に充実した取り組みにしていきたいと考えています。

黒田代表が

「第4次宋慶齡基金会教育交流代表团」について、来年度の訪日を招聘！

山東省泰安市東平県での第1回音楽教育交流会を終えた翌日の8月23日に、黒田代表理事と井頓泉副主席が、北京の宋慶齡基金会の会議室で会談しました。

井副主席からは、財団と基金会の教育交流プロジェクトが、地道に着実に成果を上げ、実績を積んでいることに対する感想と、今後の取り組みに対する期待についての発言がありました。特に音楽教育を通しての教育交流の意義が強調され、教育の分野においても、中国はまだまだ日本から多くのことを学んでいかなければなければならないという発言がありました。黒田代表理事が、今回の交流会の成果を踏まえ、来年の音楽教育交流会を日本で行いたいので、第4次宋慶齡基金会教育交流代表团の訪日を招聘したいという提案を行ったところ、井副主席から、悦んでお受けしたいという返答がありました。来年度の第2回音楽教育交流会が楽しみです。



宋慶齡基金会正面玄関で記念撮影